

7 防災拠点としての空港の役割とは？

静岡新聞 平成24年(2012年)10月3日掲載記事

基幹的広域防災拠点

静岡空港、県庁を選定 広域防災の基幹拠点

防災拠点のネットワーク形成に向けた国や中部圏5県の自治体、有識者による検討会は2日、名古屋市内で会合を開き、大規模災害時に国の現地対策本部や支援物資の中継基地となる「基幹的広域防災拠点」として、静岡県庁、静岡空港など5カ所を選定した。配置計画を「中部圏地震防災基本戦略」に盛り込み、国の防災基本計画への位置付けを目指す。

基幹的拠点のうち「司令塔機能を持つ拠点」には、東海地震単独の場合の静岡県庁と、南海トラフ巨大地震の場合の名古屋市三の丸地区の2カ所を決めた。「高次支援機能を持つ拠点」は静岡空港と愛知県名古屋空港、名古屋港の3カ所。静岡県は静岡空港西側が適地として、既に国などに働きかけている。会合では、高次支援機能を持つ拠点が①海外からの物資・人員の受け入れ②広域支援部隊のベースキャンプ③支援物資の中継・分配機能など、国が実際に施設整備をするには、各拠点を国の防災基本計画に位置付ける必要がある。自治体や防災関係機関などつくる「中部圏戦略会議」は今後、基幹的拠点として国が実際に施設整備をするには、各拠点を国の防災基本計画に位置付ける必要がある。自治体や防災関係機関などつくる「中部圏戦略会議」は今後、基幹的拠点は、首都圏では東京都江東区と川崎市に、関西では堺市に整備されている。会合に出席した山崎泰啓県危機管理監代理は「南海トラフ巨大地震の被害想定規模が大きい静岡県にとって基幹的拠点は不可欠。空港にどのような施設が必要か議論を詰

実際に災害が発生した時に空港がどんな役割をはたしたのか事例を調べてみよう！

用語解説 SCU (ステージング・ケア・ユニット)

広域医療搬送の中継拠点(被災地内)に設けられる、救急医療の専門チームによる患者の病態評価と安定化処置を行う仮設救護所のこと。ここで広域搬送に耐えられるかトリアージ(治療や搬送に優先順位をつけて負傷者を分類すること)が行われます。

防災対策の中核を担う、富士山静岡空港

1 救出・救助、消火活動部隊の集結拠点

陸路が途絶した場合に、被災していない他の都道府県の消防や警察、自衛隊、海外から空路により来る応援部隊の進出拠点になります。



2 医療活動の中核拠点

重傷者の広域搬送拠点となります。

豪雨や余震が発生しても広域医療搬送活動が行えるように、空港内にSCUを設置し、資材等をあらかじめ整備しています。



富士山静岡空港
Mt. Fuji Shizuoka Airport

3 ヘリコプターの給油・夜間駐機基地

災害時に救助・救援活動や消火活動、医療活動などで運航する応援ヘリに対し富士山静岡空港の給油施設内に備蓄している航空燃料を提供します。

また、応援ヘリの夜間駐機基地としても活用します。

4 他の都道府県への応援要員等の派遣拠点

他の都道府県において大規模な災害が発生した場合における静岡県からの応援要員等の派遣拠点として活用します。



Q.なぜ富士山静岡空港が防災拠点として活用されるのですか？

A. 東日本大震災では、地震や津波により道路が寸断されたため、災害発生直後にヘリコプターによる情報収集や救出・救助、物資運搬など、様々な場面で空からの支援が行われ、災害時の空港の有用性が改めて認識されました。富士山静岡空港はマグニチュード8クラスの地震に耐える耐震性、高台(標高132メートル)に位置し津波による被災の恐れが無いこと、東名高速道路や新東名高速道路及び御前崎港などを結ぶ交通網の結節点にあることなど、防災拠点として良い条件が揃っています。また県では、空港の西側には大規模な土地があり、ここを基幹的広域防災拠点として活用することで、航空機を利用した救援支援物資の受入れ、集積、荷さばきなどの物流支援、広域支援部隊(自衛隊、緊急消防援助隊等)の一時集結・ベースキャンプ、災害医療支援、災害ボランティア活動の支援など防災体制の充実・強化が図られると考えています。(回答:静岡県危機管理部)



もっと知りたい!
Q&A